

## 東書教育賞は教育現場を支援します



代表取締役社長

川畑慈範

主催者を代表して一言、お祝いとおあいさつを申し上げたいと思っております。第25回東書教育賞を受賞された先生方、まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、本日はご多忙のなか、休日にもかかわらず贈呈式にご出席くださいましたことを、厚く御礼申し上げます。

昨年は半世紀ぶりの本格的な政権交代という歴史的な出来事がございました。民主党を中心とする新政権は「コンクリートから人へ」というスローガンを掲げて、教育あるいは科学技術等を重視する方針を打ち出しました。ばらまきとの批判はございますが、民主党のマニフェストの目玉である子ども手当、高校授業料無償化等の新しい施策を進める一方、全国学力・学習状況調査<sup>しっかい</sup>の悉皆から抽出への変更、教員免許更新制の見直し、小学校『英語ノート』や『心のノート』の冊子配布の見直し等、次々と前政権での施策の見直し、あるいは凍結を行ってまいりました。

また、賛否両論が渦巻いた事業仕分けを終えて、昨年末ぎりぎりでしたが、22年度政府予算案が確定いたしました。今後の教育、あるいは科学技術行政の方向を定める重要な指標となります。文部科学省関係の予算は、ご承知のように約5兆6000億円ということで、対前年度3100億円、5.9%増となって、過去30年で最高の伸び率でございます。特に文教予算については、

対前年度8.1%増となっております。

初等中等教育に限って見ますと、公立高校の授業料の無償化と私立への就学支援金、3900億円が目立ちますが、注目すべきは義務教育費国庫負担金です。昨年度より減額されていますが、1兆6000億円の予算を計上し、昨年度の教員定数800人増に対して来年度は4200人増と、5倍強に増えています。ご承知のように小泉内閣の構造改革以降、削減され続けてきた教職員定数を増やす方向に転じたということは、新政権の教育政策の転換を端的に示すものではないかと思っております。

こういった新政権の新たな教育政策を受けて、今日お見えいただいている日本教育新聞社、教育新聞社の2社がそれぞれ別々に実施した現場の先生方へのアンケート調査の結果が、新年早々それぞれの紙上で発表されてきました。2紙ともアンケートの中で自由記述ということを求めています。その中でもっとも多かったのは教職員定数の増加、あるいは適正な配置を求める意見でございます。現場が多忙になっているにもかかわらず十分な支援が得られていない、あるいは教員の多忙化が進み、子どもと向き合う時間が確保できないという声が目立ったということです。

こうした先生方の多忙な実態は、すでに文部科学省は平成18年度に実施した教員勤務実態調査によって明らかになっていましたが、いわゆ

る骨太の方針により、約10年間に於いて教員数が削減され続けてきました。新教育課程の実施を控えて学校現場は疲れきっているということが各種メディアの共通した論調でございました。

加えて、平成23年度から完全実施される新しい教育課程においては、多くの教科で授業時間数、あるいは指導内容が増えます。予算案どおり教員の定数増が実現されれば、少しは現場の先生方のご負担が軽減されるのかと思います。

本日、受賞された先生方はもとより、当教育賞にご応募いただいた先生方は、多忙なご公務の合間をぬって授業改善、あるいは学級・学校経営改善、または学力向上のために心血を注いでこられ、なおかつ、その成果を論文としてまとめられたわけです。このことがいかに大変な作業であるかということは、容易に想像できようかと思っております。あらためて当教育賞に論文をお寄せいただいた多数の先生方に感謝申し上げますとともに、日ごろのたゆまぬご実践とご研究に、心より敬意を表する次第でございます。

東書教育賞は1984（昭和59）年に弊社の創立75周年を記念して創設したものでございます。それから四半世紀が経過し、おかげさまで昨年、弊社は無事創立100周年を迎えることができま

した。当教育賞も今回で第25回を数えることとなります。この間、ご応募いただいた論文数は4647編を数え、入賞論文は今回の17編を加えて326編にのぼります。これらの論文、また論文を書かれた先生方が我が国の初等教育の発展、とりわけ授業改善に大きな貢献をされてきたことは間違いのないことと確信しております。

新教育課程の実施を目前にしまして、増え続ける教育課題解決のために真摯な研鑽を続けておられる先生方を、弊社はこれまで以上に応援してまいる所存でございます。受賞された先生方におかれましては、引き続き東書教育賞にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、公私ともご多用のなか、最終審査をご担当いただいた審査員の先生方、そして一次審査をご担当いただいた東京教育研究所の主任研究員の先生方をはじめ多くの先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、本日ご出席いただいた報道関係の皆様方に感謝申し上げまして、簡単ではございますが、あいさつに代えさせていただきます。あらためて受賞された先生方、本日はまことにありがとうございます。今後のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 教育と文化の情報発信

教科書・教材・教育ソフト・学力調査・体力テスト・学校評価・一般書籍・事辞典・Web ショップ 他

# 創業100年。

東京書籍はみなさまに支えられ、平成21年10月に創業100周年を迎えました。社会的使命にお応えするため、新たな第一歩を踏み出した東京書籍に、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。



EDUCATION & CULTURE

東京書籍

〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1

